



矢崎総業株式会社 代表取締役会長
矢崎 裕彦

ゆるぎない基本を守り 変化を恐れず挑戦すること

社会が持続的に成長を続けるために矢崎グループとして何を大切にすべきかをテーマに、日本福祉大学・千頭聡教授と当社代表取締役会長・矢崎裕彦が対談を行いました。

矢崎グループの原点

千頭 1941年の創業以来、世界中で幅広い事業を展開されている矢崎グループですが、事業を行ううえで会長として大切にされてきたことを教えてください。

矢崎 これまで矢崎グループを取り巻く環境は変化し続けてきましたが、どんな状況においても、私たちは揺るがぬ柱として社是を大切にしてきました。矢崎グループの社是「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」は、創業者の「ものづくりを通じて社会に貢献したい」という想いがその源泉です。創業当時に比べ経営規模は大きく変わりましたが、社是は矢崎グループにとって行動と思考の判断基準であり、いささかも変えることなく後世に引き継ぐことが経営者としての責務であると考えています。

対談

矢崎 裕彦 × 千頭 聡

千頭 矢崎グループに流れる不変の底流が社是ということですね。サモアから事業を撤退された際の従業員への支援[※]も大変矢崎グループらしい活動だと感じました。

※30ページ「TOPICS」参照

矢崎 矢崎グループは現在世界46カ国で事業を展開していますが、私たちはいかなる地域、いかなる場面でも相手を尊重し、対話を尽くしたいと考えてきました。グローバルで事業を行ううえで大切なことは、まず地域のニーズをよく理解し、私たちにできることは何かを考えることだと思います。この想いから私は日本からの出向者に対しては、軒先を借りて商売するという意識で、現地の人と一緒に食事をし、一緒に掃除し、そして一緒に泣けと伝えてきました。そのぐらい現地に溶け込むことが、企業がその土地で事業を営むうえで重要であると考えています。一方、サモアの例のようにやむを得ず撤退する際も、これまでともに歩んできた仲間や地域の皆様に対し最大限の配慮をし、最後には相手から「また来いよ」と言ってもらえるまでになることが大切です。人に対する感謝の気持ちを忘れず、遠い将来まで見据え信頼関係を築いていく。このような想いの積み重ねが社是の実現につながっていくのではないかと考えています。

千頭 しかし、矢崎グループの規模を考えると、従業員一人ひとりに社是を浸透させ、それを実のあるものとして引き継いでいくことは、簡単なことではないと思います。さまざまな国や地域で事業を展開されるなかで社是の浸透という視点で大切なことはなんでしょうか。

矢崎 おっしゃるとおり30万人もの従業員にこの想いを浸透させることは簡単なことではありません。しかし、国や文化、言語が違って、一人ひとりに根気強く、その目的や意味を伝えることで素晴らしい価値を生み出すと考えています。たとえば、掃除。矢崎グループの進出国には発展途上といわれる国も多く、トイレも満足にない、不便で不衛生な環境が当たり前であることも少なくありません。そういう環境のもとで、丁寧に清潔の価値を教え、掃除や整理・整頓を習慣づけるなど、5Sの文化を根付かせています。

千頭 矢崎の工場に伺ったことがありますが、掃除や整理整頓が行き届いており、仕事がしやすい工夫がなされていると感じましたが、そのようなお考えに基づく積み重ねの結果なのですね。

矢崎 その状態になるまでには時間がかかりますが、5Sという考え方を理解することで初めて品質管理という概念も育ち、ものづくり企業としての誇りや仕事へのやりがいにつながるのではないのでしょうか。そしてこれが企業にとっても大きな力になるのではないかと考えています。さらに私が嬉しいことは、従業員が矢崎グループで培ったことを糧に、地域社会の皆様と一緒に清掃活動などに積極的に参加している、ということです。従業員には今後もどんどん参加してほしいと思います。

地域とともに発展する矢崎グループであるために

千頭 少し話は変わりますが、私が以前から注目している矢崎グループの活動として、日本国内での農業や介護などの事業がありますが、こうした事業に対するお考えをお聞かせください。

矢崎 近年、矢崎グループでは農業事業、介護事業、さらには環境・リサイクル事業などに取り組んでおり、これらの根本にも社是があります。地域社会が抱える課題に対し、矢崎グループがワイヤーハーネス製造という事業特性で培ったノウハウやチームワーク、そして従業員の個性を活かしながら、地域とともに取り組んでいるものです。その歩みは、ワイヤーハーネス事業に比べるとゆっくりかもしれませんが、地域に根付き着実に発展を続けているという実感があります。変化が当たり前の時代だからこそ、地域の方々の声をよく聴き、ともに発展できる事業が何かを考え提案していきます。

千頭 私も農業事業を実際に見学させていただきましたが、地域の中で生かされ、地域とともに存在している事業であることを実感しました。地域課題の解決に必要な事業を立ち上げていくという矢崎グループの考え方は、地域の価値を高めるといふ視点からも今後も取り組んでいかれることを期待します。

社会が持続的な成長を続けるために 大切にすべきこと

千頭 最後の質問となりますが、社会が持続的に成長を続けるために、矢崎グループとして何が重要だとお考えですか。

矢崎 私たちの基本が社是であることは変わりませんが、その実現を担う従業員一人ひとりが、自分たちが会社を変え、新しく作っていくという気概をもつことが非常に重要だと考えています。矢崎グループを取り巻く事業環境は著しく変化



日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授
千頭 聡氏

専門分野 地域環境計画、環境学習、持続可能な開発のための教育(ESD)など。自然科学と社会科学のアプローチの総合化を図りながら持続可能な開発の進め方について、実証的研究を行っている。国内では、参加型の地域開発、市民・事業者・行政の協働型まちづくりを支援し、国外では、アジアの発展途上地域を中心に、持続可能な地域社会づくりにかかわる現場重視の調査研究を行っている。

しており、まさに激動の時代と言えます。この激動期にあっては、既存のルールにとらわれず、自ら新しいルールを作り、挑戦していく精神がぜひとも必要です。これからの矢崎グループを支える若い世代の従業員をはじめ、一人ひとりが変化を恐れず、果敢に行動してほしいと考えています。私は若手従業員を対象とした「フォローアップ研修※」の場で、対話の機会を設けています。この対話を通じて、彼らがどんな視点で、どんなことを課題として抱えているかを知り、さまざまなことに挑戦する従業員を会社としてしっかりサポートしたいと考えています。それが矢崎グループの持続的な成長につながり、ひいては社会の持続的発展につながると期待しています。

※26ページ「矢崎塾」参照

千頭 ゆるぎない基本を守るといふことと、変化を恐れず挑戦することの両立が大切だということですね。

矢崎 今後も社是の実現に向け、日々邁進していきたいと思えます。千頭教授とお話しさせていただいたことで、矢崎グループの原点をもう一度見つめ直す機会となりました。本日はありがとうございました。